谷町六丁目駅 40分コース

Osaka Metro まちさんぽ

谷町線・長堀鶴見緑地線 谷町六丁目駅

タニマチ・空堀（からほり）・直木三十五（さんじゅうご）

「芸術は短く、貧乏は長し」直木三十五の故郷を歩く

谷町六丁目一帯は、戦災の空襲から奇跡的に焼け残ったまちで、戦前の町家が多く残っています。
「直木賞」に名を留めている作家・直木三十五は、「桓武天皇時代からの貧乏」と自ら書いている安堂寺町2丁目の生家に生まれ、ここのまちで仕事を得て、文芸の世界へ踏み出しました。

約40分

スタート駅 谷町六丁目駅 ⑤号出口 長堀鶴見緑地線 谷町線

1. 谷町筋・タニマチ
2. 直木三十五の故郷
3. 直木三十五文学碑 榎木大明神と
4. 御祓筋（おはらいすじ）（熊野街道）
5. （南高校跡）育英第一高等小学校
6. 再生複合施設 空堀商店街
7. （桃園公園）桃園尋常小学校跡 「萌」直木三十五記念館
8. 観音坂

ゴール駅 谷町六丁目駅 長堀鶴見緑地線 谷町線

豊臣秀吉が大坂城の南側の惣構（そうかまえ）（防衛線）とした空堀（からほり）は、徳川によって埋め立てられましたが、あたりに良質の瓦土が出土して、あちこちに土取場の窪地が生じました。空堀商店街の両側の土地の起伏はその名残で、そこに江戸時代中頃から長屋が建ち並びました。

谷町六丁目駅 40分コース

Osaka Metro まちさんぽ

谷町線・長堀鶴見緑地線 谷町六丁目駅

タニマチ・空堀・直木三十五

「芸術は短く、貧乏は長し」直木三十五の故郷を歩く

谷町六丁目一帯は、戦災の空襲から奇跡的に焼け残ったまちで、戦前の町家が多く残っています。「直木賞」に名を留めている作家・直木三十五は、「桓武天皇時代からの貧乏」と自ら書いている安堂寺町2丁目の生家に生まれ、ここのまちで仕事を得て、文芸の世界へ踏み出しました。

スタート駅 谷町線・長堀鶴見緑地線谷町六丁目駅⑤号出口

約 40 分

ゴール駅 谷町線・長堀鶴見緑地線谷町六丁目駅

1 谷町筋・タニマチ

谷町は上町台地の窪地を指す地名で、秀吉が誘致した寺院や江戸期には大坂城詰め武家屋敷が並んでいました。明治になって谷町の寺院に大阪相撲の相撲部屋が設けられ、相撲に熱心だった医師・薄恕一（すすきじょいち）が力士の治療費や生活費を支援したことからタニマチ（資金支援者）という言葉が生まれたそうです。

2 直木三十五の故郷

直木三十五（本名・植村宗一）は、明治24年（1891）生まれで、現在の谷町6丁目交差点に生家がありました。古着屋を営んで「店先にはぱっち（股引）二三足と汚い古着が四五枚吊ってあっただけ」という貧乏暮らし。生家から少し西側に引っ越したのち、桃園尋常小学校（とうえん）と育英第一高等小学校（南高校跡）で学びました。近くには小間物屋、呉服屋、餅屋、貸本屋が並び、貸本屋で直木は講談本を読みふけりました。貸本屋は立ち読みを黙認してくれて日参したと直木は書いています。市岡中学校（現市岡高校）を卒業後、奈良県の小学校代用教員になり、その後に早稲田大学英文科に入学しました。

3 榎木大明神と直木三十五文学碑

正しくは槐（えんじゅ）の樹ですが「榎（えのき）さん」と親しまれている樹齢680年、楠木正成が植えたという大木があります。直木がここでよく遊んだそうで、文学碑には歴史大衆小説の嚆矢（こうし）とされる『南国太平記』の一節が書かれています。直木のペンネームは、本名の植村の「植」を分割して「直木」にして実年齢を付すというもので、三十一から始まって三十三のとき「さんざん」と揶揄され、三十四が抜けて、菊池寛から「いい加減にやめよ」と言われて三十五で収まりました。

4 御祓筋（おはらいすじ）（熊野街道）

榎木大明神へ向かう道は熊野街道の道筋で、熊野詣の出立に八軒家浜の窪津（くぼつ）王子で清め払いをしたことから「御祓筋」と呼ばれ、熊野街道は大明神の大木を目印にして東へ曲がりました。階段は空堀跡で、南側には瓦土の採取跡である野漠（のばく）が広がり、直木は野漠でよく遊んだと書いています。

5 育英第一高等小学校（南高校跡）

直木の母校で、同時期に小説家・宇野浩二も在校していましたが面識はなく、早稲田大学でふたりは親交を深めました。直木が芸者の香西織恵に惚れて、一日見たいと宇野を誘って風呂屋で待ち伏せしたと宇野が回想しています。直木は授業料が払えず除籍中退ですが、大学には通い続けて卒業写真にも写っているそうです。

6 空堀（からほり）商店街・再生複合施設

大正時代に地元の延命地蔵の縁日に夜店が出て、そこに商店街が形成されました。戦災の被害も少なく、終戦後に市内各所から商店が集まりました。上町台地の斜面にあたり、商店街は東に高く傾斜した坂道です。戦前の町家や長屋が残る路地に、古民家を再生したレトロな意匠のカフェや雑貨店が次々に開店し、複合ショップ「惣」「練」「萌（ほう）」が地域のシンボルとして注目を集めています。

7 直木三十五記念館・「萌（ほう）」桃園尋常小学校跡（桃園公園）

桃園尋常小学校（とうえん）は直木の母校で、現在は公園になっています。桃園公園周辺が野漠（のばく）で、そもそもは徳川幕府の御用瓦師・寺嶋藤右衛門の拝領地でした。寺嶋家が27,000坪の広大な土地で瓦土採取を続けました。公園の一画にある複合文化施設「萌」に直木三十五記念館があります。菊池寛は、昭和9年（1934）に43歳で早逝した直木と、昭和2年（1927）に35歳で自殺した芥川龍之介のふたりの盟友の死を悼んで「直木賞」「芥川賞」を創設しました。

8 観音坂

かつてここに和勝院という観音寺院がありました。境内にすばらしい藤棚があって「藤棚観音」とよばれた名所で、近松や西鶴にも描かれています。

文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。
なお、掲載している情報は2026年4月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro
協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会　（お問い合わせ先）大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp
後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

https://www.osaka-asobo.jp または 大阪あそ歩 で検索

ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。
※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。住宅敷地内での写真撮影は厳禁です。

ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

Osaka Metro × 大阪あそ歩 × 歴史街道　毎月第１金曜日発行

駅スタンプ押印欄

制作：大阪あそ歩委員会・茶谷幸治　編集：伏見佳子　デザイン：たばるかつこ　イラスト：櫻井さなえ